



<p>【 町田市教育プラン 24-28 】</p> <p>教育目標</p> <p>*自ら学び、あなたと学び、ともに創る町田の未来</p> <p>基本方針</p> <p>【Ⅰ】未来を切り拓くために生きる力を育む</p> <p>【Ⅱ】一人ひとりの多様な学びを推進する</p> <p>【Ⅲ】将来にわたり学ぶことができる環境を整備する</p> <p>【Ⅳ】地域とともに学ぶ力を高める</p>	<p>【 学習指導要領 2020～ 】</p> <p>*未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」</p> <p>*新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた教科や目標・内容</p> <p>*主体的・対話的で深い学び</p> <hr/> <p>〈 時代の変化 〉 2030</p> <p>産業構造・社会の変化 DXの進展 AI IoT</p> <p>技術革新 グローバル化 情報化 SDGs</p> <p>核家族化 少子高齢化 人口減少</p> <p>課題の複雑化・多様化 教員の多忙化</p>
---	--



町田市立小山中央小学校 学校教育目標

コミュニティ・スクール ～ 家庭・地域とともに歩む学校【共育（ともいく）】～

◎ 考える子	(知：確かな学力・学び続ける力)
○ 思いやりのある子	(徳：豊かな心・認め合う心)
○ 元気な子	(体：健やかな体)

確かな学力・豊かな心・健やかな体をもち、学び続け、認め合い、
力をあわせてよりよい社会をつくり出そうとする児童の育成を目指す

1 目指す学校像

- (1) 児童の健全育成のための主体的参加型のコミュニティ・スクール 家庭・地域と共に歩む学校 「共に育てる・共に育つ」共育の推進
- (2) 考える楽しさや学び合う喜びが感じられ、確かな学力と学び続ける力が身に付く学校
- (3) 児童一人一人のよさが認められ、自己肯定感が高まる学校
- (4) 安全と健康を大切にする学校

2 目指す児童像

- (1) 地域を愛し、地域に親しむ子供
- (2) よく考え、ねばり強く取り組む子供
- (3) 思いやりをもち、互いのよさを認め合い、助け合う子供
- (4) 心身健康で安全に元気に活動する子供

3 目指す教職員像

※ 教育、事務、用務、給食のプロ ※ 人として信頼できる教職員

- (1) 保護者・地域との連携・協働を大切にする教職員
- (2) 専門職としての自覚と高い指導力をもち、協働し、学び合う教職員
- (3) 誠実で思いやりがあり、丁寧な言葉づかいや礼儀など常に範となる教職員
- (4) 危機管理能力の向上、及び、自身の心身健康保持増進による継続的な教育の質の向上に努める教職員

4 学校教育目標達成に向けた取組と具体的な方策

(1) **保護者・地域と連携・協働した学びの推進** コミュニティ・スクールの充実「共育」の推進 ～主体的参加型の学校づくりで、皆の力の結集を！～ **【基IV】**

ア コミュニティ・スクールの推進、家庭・地域・企業及び人材を生かした体験的活動の企画・実施

- ・学校運営協議会・地域学校協働本部等を通じて、本校の教育活動を周知し、15周年の節目を大切にしたい実りのある協力体制の活性化を図る。
- ・ボランティアコーディネーターと連携し地域人材を生かした教育活動の充実を図り、児童の興味関心を高める。ゲストティーチャーや地域ボランティア及び、企業と積極的に連携する。
- ・隣接する雑木林の活用、近隣の工場・事業所と連携した体験的及び探究的な学習の充実により、自ら考え、判断し、表現する力を育てる。近隣の学校・施設や地域住民との交流活動を通して地域を知り、地域に参加しようとする心情を培う。
- ・雑木林委員会の方々の活動に触れ、親しみと感謝をもつとともに、雑木林を利用した植物・野鳥の観察栽培などの活動を通して、自然に親しみ、自然環境を大切にしていこうとする心情を育てる。
- ・PTAと連携した読み聞かせ活動により、様々なジャンルの本に親しみ、本好きな児童を育てる。
- ・読書週間には家庭で親子いっしょに本の話題を共有する「親子読書」を実施する。
- ・放課後英語教室MAEC（2～5学年対象）の実施を通して英語に親しむ機会を増やす。
- ・家庭と連携した体力向上や健康教育、食育を推進する。
- ・家庭・地域・関係諸機関と連携して児童の心身の健全育成を目指す。
- ・見守り隊やPTA旗振り当番、交通安全教室の実施、一人1台端末持ち帰りの際のSNS家庭ルールの作成や見直し、サマースクールなど、様々な面において家庭・地域との連携を強化し、コミュニティ・スクールの充実を図る。

イ 保護者・地域への積極的な情報発信と公開を通じた教育活動への理解促進

- ・学校だよりや学校ホームページ、学級だより、クラスルーム等で、子供たちが楽しく学校生活を送る様子を積極的に発信する。家庭・地域に毎日の閲覧を楽しみにしてもらえよう魅力ある情報発信を心がけ、連携・協働の一層の促進に向け、情報共有の場となるようにする。ホームページを活用した学年や特別支援学級、特別支援教室からの情報発信も行い、タイムリーな情報を保護者・地域に届ける。
- ・保護者の気持ちに寄り添い、良好な人間関係のもとに、保護者会、公開、参観、行事を積極的に公開する。
- ・2学期制（前期後期）に伴い、夏季休業日前半と冬季休業日前に個人面談を実施し、その時点での児童の成果と課題について、学校と家庭で情報共有を行う。共有した情報を基に、学校と家庭が連携して児童の学ぶ意欲を高め、スモールステップの目標を設定し、自己肯定感を育みながら児童の主体的な学びを共に支える。
- ・保護者アンケートや学校評価の回収率が更に上がるよう協力を依頼し、教育活動の充実反映させる。

(2) **生きる力、確かな学力の育成に向けた組織的取組の推進** **【基I-1・2】** 授業改善を進め、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等の育成とともに、主体的・対話的で深い学びを実現する。

※ 未来の創り手となるために必要な資質・能力の「3つの柱」を育む。

- ・生きて働く「知識・技能」の習得（何を理解しているか、何ができるか）
- ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成（理解していること、できることをどう使うか）
- ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養（どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか）

※小学校は「学びの基礎」をつくる大切な時期

- ・家庭との連携推進による望ましい学習習慣、生活習慣は小学校低学年からの継続的な取組が大切
- ・「Machida Next Education【家庭学習編】」を踏まえ、学習ドリルソフト Qubena 等を活用し、家庭学習を定着させ、授業と家庭学習を組み合わせさせた効率的・効果的かつ継続性ある学習の充実の連携強化を促進する。

ア 授業をデザインする8つの取組を踏まえた児童にとって「分かる できる つくる 楽しい授業」の展開

- ・学習規律やノート指導、板書等の共通理解を図り、「授業をデザインする8つの取組」（町田市学力向上推進プラン第3次）や「学習スタンダード」を意識した授業を展開する。各教科の本質的な楽しさを感じ、協働で学び、つくる喜びを味わい、感動する心を育成する。
- ・授業をデザインする8つの取組の中から、特に「見通しをもたせる導入」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」「ICTの活用」の4点を重点とし、学力向上を図る。
- ・個に応じた指導により躓きを取り除き、知識・技能を定着させる指導を積み重ねる。また、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学び合う機会を設定する。
- ・学習ドリルソフト Qubena を活用した個別最適化学習の教科では、児童一人一人の取組状況を把握し指導に生かす。学習ドリルソフト Qubena、東京ベーシックドリル等を活用し、繰り返し学習することを通して、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。
- ・学習者用デジタル教科書と指導者用デジタル教科書を有効に活用し、理解を深める。
- ・算数科習熟度別指導による「確かな学力」の定着を図るとともに「学びに向かう力」を涵養する。

イ 学習への興味・関心を高め、未来を見据えて主体的に学び続ける児童の育成

- ・大型提示装置や一人1台端末を効果的に活用し、自分の考えを多様な方法で表現させ、協働学習を取り入れることにより、主体的・対話的で深い学びを実現する。
- ・「対話」「協働」「探究」を軸に置いた創造的な「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を伸ばす授業を目指した授業改善や「12の考える力」を踏まえた授業づくりを行い、既習事項を活用した問題解決型、探究型の学習を展開する。価値のあるテーマで話し合い、自分の思いを伝え、議論するとともに、学びの意欲を高める。
- ・ICTを活用した授業改善において、2年間の校内研究と積み上げを基にさらに実践を積み重ねる。「学力向上MNEチャンネル」（デジタル版実践事例集）、文部科学省「小学校プログラミング教育の手引 第3版（R2.2）、教員用ポータルサイトなど、積極的活用する。
- ・主体的に学びに向かう児童を目指し、ICT・読書・英語・家庭学習等すすんで取り組む態度を育成する。
- ・指導教諭による専門性の高い外国語（英語）教育、学級担任・ALT・英語講師との連携、えいごのまちだ推進事業によるイングリッシュフェスタ（第6学年）、スヌーピーミュージアムでの校外学習（第5学年）、に加え、オンライン国際交流（国際コンシェルジュ事業）やイングリッシュキャラバン実施など、英語によるコミュニケーションや言語活動の充実を図り、未来を見据えた特色ある学びを行う。
- ・小中一貫町田っ子カリキュラム「キャリア教育」（2022年3月改定版）に基づき、キャリア教育の4つの資質能力「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」を大切にしながら教育活動の充実を図る。一人1台のタブレット端末においてキャリアパスポート（電子版）を活用し、特に、「自己理解・自己管理能力」の育成に重点を置き、前向きに考える力や最後まで粘り強く取り組む力を育む。

(3) 豊かな心の涵養、多様性の尊重、自他を大切にし認め合う思いやりの心の醸成【基Ⅰ-4基Ⅱ基Ⅲ】

ア 生命を大切にする心や思いやる心、規範意識等の育成を通じた自己肯定感の醸成

- ・道徳科の授業では道徳的価値に基づく自己の振り返りの時間を設置しつつ、学校教育全体を通して道徳的実践力を育成する。道徳の授業において「自分を振り返る」時間を重視し、「考える道徳」「議論する道徳」を軸に「特別な教科 道徳」の授業充実、及び、他の教科領域との関連による道徳的心情の醸成を図る。
- ・いじめは絶対に許さないことを全職員で徹底し児童自身に考えさせる場を設定する。人権尊重を基盤とし全学級で「いじめに関する授業」を年間3回以上実施する。人権を相互に尊重する姿勢を育て、善悪の判断力を養い、いじめを絶対に見逃さない生活指導を実施する。
- ・「いじめ防止教育プログラム」「心のアンケート」を活用し、いじめの可能性の早期発見、いじめ対応チームによる迅速かつ組織的な対応を行う。
- ・児童一人一人に寄り添った個別の支援や不登校対策等に適切な対応を行う。学習支援委員会による協議個別の教育支援計画の作成等により、児童の自立や社会へのよりよい適応を目指す。
- ・ICT機器を活用により、一人一人の教育的ニーズや特性に応じた、多様な教育活動を推進する。
- ・スクールカウンセラーによる面談を適宜適切に行う。第5学年は全員面談を実施する。
- ・全校一斉朝読書の実施、学校図書館の意図的計画的な活用の促進により、読書を通じた豊かな心を育む。

（第三次町田市子ども読書活動推進計画）

イ 人との関わりを通じた自分も友達も大切に、主体的に伝え合う態度の育成

- ・児童の主体的な活動を重視し、交流を推進する。なかよし班活動、委員会、クラブ、異学年交流活動、係活動などで思いやりの心を育てる。よりよい学校生活や学級づくりのため、第5学年が実施する「hyper-QU」を活用する。
- ・挨拶・言葉づかい、ネットマナー等「考えること」を大切に実践を年間通して行う。ICT活用促進に伴い、世界中と繋がることのできる時代だからこそ、多様性を尊重し、相手を思いやることのできる情報モラルを高める。SNS東京ルールに基づく学校と家庭でのルールの見直しと活用を、日常的に連携しながら取り組む。
- ・多様な交流を広げ、特別支援学級、副籍制度の児童との交流級の活動を充実させる。町田市特別支援教育ハンドブックを活用し指導に活かす。特別支援学級との連携による研究交流Weekなど校内研修を実施し、教職員の共通理解を図り、力量を高める。
- ・特別支援教育コーディネーター・特別支援教室専門員の活用による情報共有、指導内容等の連携強化を進め、特別支援教育の充実を図る。ユニバーサルデザインの視点に基づいた教室環境、学習環境の整備を組織的に行う。
- ・学校2020レガシーを継承し2024年オリンピックや世界の国について調べ学習を行う。オンライン等での外国の児童との交流を通して異文化理解や日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を醸成する。

(4) 基本的な生活習慣、たくましい心、体力向上を目指す取組の促進 自助・共助・公助による安全指導・安全教育の充実

【基I-3】

ア 運動の日常化と健康教育及び食育の充実による基礎体力の向上

(町田市体力向上推進プラン(町田っ子アクティブ・プロジェクト)改訂版)

- ・体力テストの結果の分析を生かした体育科の授業を実施し、運動の日常化を行う。運動の楽しさを味わうことができる「わかる・できる・楽しい」体育科の授業づくり、生涯スポーツに親しむ素地づくりを目指す。運動の仕方や動きが「わかる」、基本的な動きが「できる」体を動かすことが「楽しい」という経験を積み重ね、運動に親しむ態度を育む。
- ・体を動かす遊びや集会など全校での取組の充実、一校一取組などによる運動の習慣化を図る。
- ・運動会や連合体育大会に向けた年間を通じた継続的な指導を充実させる。
- ・生活リズムカードを活用し、家庭と連携した健康教育と食育を推進する。
- ・「正しい姿勢の保持、体幹を鍛える＝体力向上や健康増進」と意識付け、習慣化させる。
- ・食に関わる学びや体験を通して、食に関する知識を高めながら望ましい食選択や食行動を実践できる力を育む食育を行う。

イ 安全な環境整備と自己・他者の命や心身を守る力の育成のための全校体制の徹底

- ・SDGsやオリンピックレガシーに基づき共生の精神を育み、児童の主体的・体験的な活動を全校で実施する。
- ・避難訓練や安全指導・校内美化整備を充実させ、交通事故防止や不審者対応の安全意識、ネットマナーなどの育成、チーム支援力を高め指導充実を図る。
- ・遊びのルール、廊下・階段の歩行など、学校のきまりを守って生活する意識を高める。
- ・安全指導の年間計画に基づく確実な指導を行うとともに、危機管理情報(健康・問題行動・安全等)を校内で迅速に共有し、指導にあたる。
- ・自然災害を想定した避難訓練を年間計画に基づき実施する。二次避難場所は白山公園とする。
- ・「安全教育プログラム」や「防災ノート～安全と災害」「東京マイ・タイムライン」を活用した指導する。
- ・交通標語ポスターの活用・掲示をし、道路の歩行と横断、自転車の利用などに関する指導を実施するとともに、下校指導等の日常的な交通安全指導を徹底する。
- ・不審者対応、セーフティ教室、薬物乱用防止教室の実施等により、自分の身を守るための危機管理能力を育成する。SOSの出し方や命の大切さに関わる指導を行う。
- ・ボランティアコーディネーター、経営支援部、スクールサポートスタッフとの連携による教育の充実、体罰防止、服務規律徹底、職務の効率化とライフワークバランスにより心身の健康保持増進に努める。